



NPO法人
笑老ライフ研究所
SHOUROU-LIFE LABORATORY

季刊誌 秋号

笑老ライフ

「笑」って「老」いていける世の中にしたい。



2021.9.30 発行

緊急事態宣言が解除となり、秋の行楽シーズンを迎えるとしています。マスクに換気..を意識して、この秋を堪能して下さい。笑老ライフ研究所に於きましては、8月に新年度を迎え、新装開店と言った状況です。8月から新装スタートをした『笑老ライフチャンネル』では、テーマを設けて私なりの考え方や生き方についてお話をさせて頂いています。この番組が、会員の皆さまを含め多くの方のお役に立てれば幸いでございます。どうぞ、ご覧ください。昨年度の期中あたりから、「ヤングケアラー」について調査研究をして参りました。ヤングケアラーに関する調査を国が行い、予想以上に多くのヤングケアラーがいる事がわかり、社会的に大きな問題として扱われています。家族の在り方が変わり一人親家庭が増える中、それに比例するようにヤングケアラーが増えているようです。私にとってこのテーマは他人ごとではありません。私自身が経験したヤングケアラーに対し、自立して生きていく為に必要な支援を、私共としてできる範囲内で精一杯おこなおうと考えている今日この頃です。皆さん、今月もどうぞお付き合いください。

NPO法人 笑老ライフ研究所 理事長 植木 理美

〈ヤングケアラーのイメージ〉



室長の ギモン?ナンモン!ドンナモン!?

ヤングケアラー
そうなりたいと誰1人、思った
ことはないだろう
もし、家族の中で家族の誰かの
ケアをする必要があるとしたら、
私はその役割を自ら進んで
やるだろうか?
皆さん、自分の身に置き換えた時、
如何ですか?

- 1 笑老ライフチャンネル・番組制作と広報
- 2 ヤングケアラー問題の調査研究
- 3 ホッ..とサロン運営
- 4 季刊誌「笑老ライフ」の発刊

これら事業は、ヤングケアラー問題の改善に役立てる為に行う所存です。皆さん、未来の日本を支えていく子供達の為にどうぞ、お力を貸し下さい!

News

笑老ライフ研究所は、
8月より新年度を迎えました。
今期は、右記の事業を行います。

川柳コーナー



このページでは、笑老ライフにちなんだ川柳を取り上げたいと思います。

脳トレをすると思い、コーナーにぜひ参加をして下さい。

今回は、「2021年 秋」をテーマに一句 詠んで頂いています。

ショータイム 弾丸ライナー ふた閉める

コスモスよ 残暑の日々に まだかよと

モンブラン 暑さ寒さは 関係ねえ

両リーグ 最後に笑う 主誰ぞ

MVP 祭りの後の ショータイム

任期はと 言えば変わった 人気へと

人気者 はがれにはがれ 下積へ

下積が ここが勝負と 腹くくる

必ずや 成し遂げるのだ 志

神無月 半袖長袖 共に着る



笑老ライフ研究所 〈近況報告〉

事務局 照屋広基さん退任

長年、笑老ライフ研究所の事務局として、「認知症センター養成講座」を担当し、多くの子供達から大人までに認知症とは.. 認知症の方とのコミュニケーションは.. について、時に紙芝居で.. 時にはパワーポイントでわかりやすく説明し、情熱的に教えてくれた『照屋広基』君が、7月をもって退任しました。彼の存在が多くの人から必要とされるなか、彼の仕事も集約し、その仕事を行う事で多くの方のお役に立てる、という仕事にシフトされます。今後の活躍に期待をしています。照屋さん、がんばってください。

植木理事長の『笑老ライフチャンネル』

毎月1回、笑老ライフチャンネルを更新しています。内容は、植木理事長によるテーマごとのお話です。8月は「生きる」。9月は「自分とは何か?」です。ぜひご覧ください。詳しくは、下記QRコードを読み込んでください。

笑老ライフチャンネル QRコード

笑老ライフ研究所の「笑老ライフチャンネル」のQRコードです。
ここを読み込んでご覧ください。



(お問い合わせ先)
福岡市南区日佐4丁目39番28号
担当者:山崎・岡 連絡先:092-589-6780

川柳・微笑みの写真

大募集

笑老ライフ研究所では、「笑老ライフ川柳」と並びに「微笑みの写真」を募集しています。それぞれ年間大賞を決めたいと想っています。皆さん、奮ってご参加ください。

私の笑老ライフ

大募集

「My・笑老ライフ」を募集しています。人生いろいろ、男もいろいろ、女だっていろいろです。その中で、誰しもターニングポイントになったできごとがあるかと思います。その生きる智慧を共有し、笑老ライフを生きる仲間の支えにできればと考えています。



NPO法人 笑老ライフ研究所

福岡市南区日佐4丁目39番28号
TEL:092-589-6780 FAX:092-588-1231



My・笑老ライフ

自分が選んだ人生

はな悠愛 有限会社

取締役 金 ボミ



今年、私は日本にきて10年目になります。2011年大学4年生の時、インターンシップがきっかけで初めて日本に来ました。日本が好きで、日本で住んでみたいと思っている友達も多かったですが、私は日本にあまり興味がありませんでした。日本というか、海外で働くことを考えたことがなかったです。そう思っていた私がどうやって日本に来て、それから10年も過ごしているのでしょうか。大学3年生の時、フィリピンへ海外ボランティアに行きました。全国から20名の大学生が集まってフィリピンに行って、外でテントを張って自給自足の生活をしながらボランティア活動をしました。主なボランティアの内容は、新しい福祉施設を建てる現場作業の手伝いや学校の支援などでした。私はこの1ヶ月間、ボランティアのほかにも貴重な人生勉強になりました。その時、韓国で気にしていた学校の成績や人間関係など、自分の人生で大きく感じていたことが、大したことではないと感じられました。世界に出たからこそ、韓国だけが自分の世界だと思っていた私が「井の中の蛙」だったと気づきました。それから1年を経て大学4年生の時、私が日本インターンシップに志望したのは、このフィリピンでの経験が考え方を変え、海外でもっと様々な経験をしてみたいと思ったからです。2011年は福島第一原子力発電所事故があって、インターンシップに志望していた学生たちは不安や両親の反対でキャンセルする時期でした。しかし、私はインターンシップに行くことを決めました。先に自分でインターンシップの費用を払って、親に支払いも終わったらもう行くしかないと押し付けました。それで、初めてきた日本が福岡でした。

ウェルビス悠愛の介護施設で3ヶ月間インターンシップをしました。たどたどしい言葉でわからないことばかりの私たちをスタッフの皆様は優しく受け入れてくれました。バスを乗り換えてほぼ1時間かかる通勤でしたが、行きたくないと思ったことは3ヶ月間一度もないぐらい楽しい時間でした。韓国に帰る前に就職のオファーがありました。日本語が下手な外国人である私を何故採用されますかと社長に伺いしたら、国は関係ない、今の若者に足りない礼儀や心の優しさを持っている、言葉ができなくても心で伝わるよと言ってくれました。その言葉に感動して、勇気を持って日本で働くことを決めました。最初は1年後帰るつもりでしたが、1年が経ち、また選択の岐路に立ちました。韓国に帰るか日本語学校に進学するか悩みました。日本でもっと過ごしたい気持ちと、日本語を母国語のように話せるようになりたいという思いで、日本に残って日本語学校に行くことを決めました。1年間の留学ビザが終わって就労ビザがおりてから、私は本部へ異動になりました。本部に来て初めてやる仕事が多く、わからないこともたくさんあって苦労もしましたが、新しいことを習いながら、働いていくうちにもう何年が経ちました。そして2015年10月から、はな悠愛で韓国語講師と役員を兼務しております。私は幼い時から先生になりたいという夢がありました。その夢を叶えてすごく嬉しいし、やりがいがあります。私は10年間、介護施設から企画室へ、企画室から総務部へ、それから今韓国語の教師として、役員として、様々な経験をさせてもらっています。私は、自分で決めた選択が人生の道を作ってくれると思います。私がフィリピンに行ったこと、日本にインターンシップで来たこと、韓国に帰らなかったこと、日本語学校に進学したこと、韓国語教師になったこと、すべてが偶然ではなく、自分が選んだ選択から開かれた人生だと思います。これからも数え切れない選択が訪れてくると思うので、その時を楽しみに迎えようと思っています。そして皆様との出会いを大切にして、これからも楽しく笑老ライフを送っていきたいです。



My・笑老ライフ

My・笑老ライフ

家族愛(笑顔)

介護福祉士

田中 由美



私の憧れの人、尊敬する人は、植木理美理事長です。いつも笑顔で、優しくて、大きな愛で包んでくれます。一番共感しているところは『家族愛』です。どんな事があっても家族を守る!!というところです。そんな理事長に少しでも近づきたいという思いから、この笑老ライフ研究所の『ホッ…サロン』に参加しています。ここでは、「将来どういう事をしたいか?」などグループワークをします。



いたのを思い出します。

今年はひまわりの畑を作ろうと思い、一つ一つポットに種を蒔きました。私は腰痛持ちのため、土地を耕すのは次女にしてもらい、芽が出たら苗を長女に植えてもらいました。そして息子に水を撒いてもらい、一家全員で役割を担ってもらいました。その甲斐あり、スクスクと成長してくれました。ところがある日、ゲリラ豪雨に襲われ1m位に伸びていたひまわりが全部倒れてしまいました。

ショックを受けましたが、「これで負けてたまるか!!」と支柱を立て、家のアチコチから紐で引っ張って補強しました。すると、更に成長して2m位の高さになり、見事に大きな花が咲きました。家族みんなで育てたひまわり。ひまわりも私たち家族も、皆笑顔になりました 😊

ひまわりに例えてみましたが、どんな苦境に立たされても乗り越える力、負けない心、笑顔を忘れない事を、この笑老ライフ研究所で学んでいる気がします。私も理事長のような大きな愛で家族を護り、これから先おばあちゃんになっても、孫たちと一緒に楽しく花を育てていけたらいいな…と思うのが、私の『笑老ライフ』です 😊

